

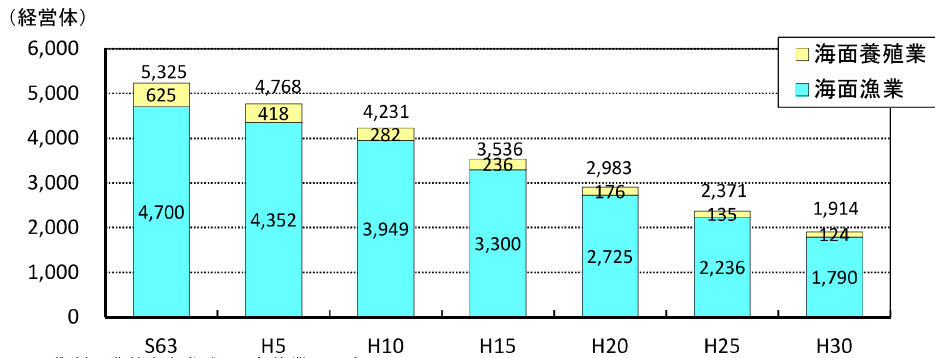
(3) 大分県の水産業の現況について

大分県の海岸線の総延長は775km（全国14位）で、日本の三大干潟のひとつである豊前海からリアス式海岸の豊後水道まで変化に富んだ海岸地形を有している。このため、沿岸域は好漁場に恵まれており、海域ごとに特徴のある漁船漁業や養殖業が営まれている。

① 漁業経営体数と就業者数

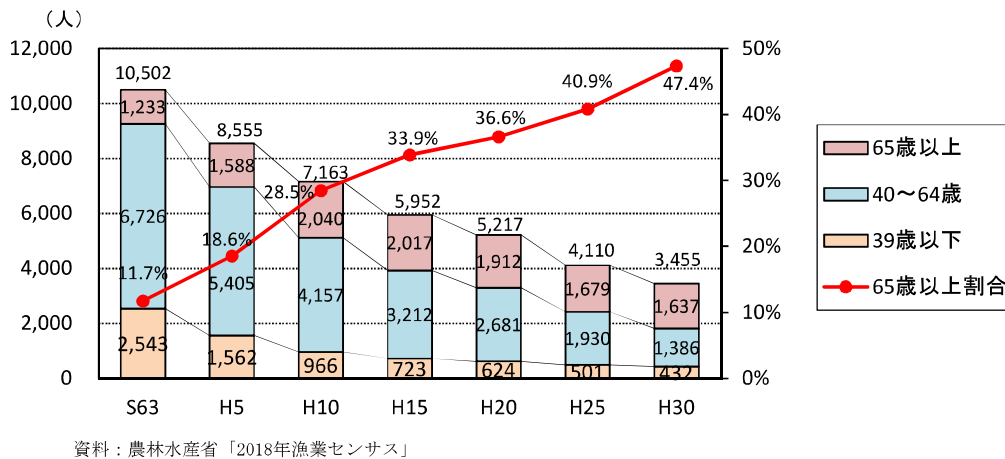
ア 漁業経営体数

漁業経営体数は昭和48年の6,825経営体をピークに減少が続き、平成30年は1,914経営体となっている。



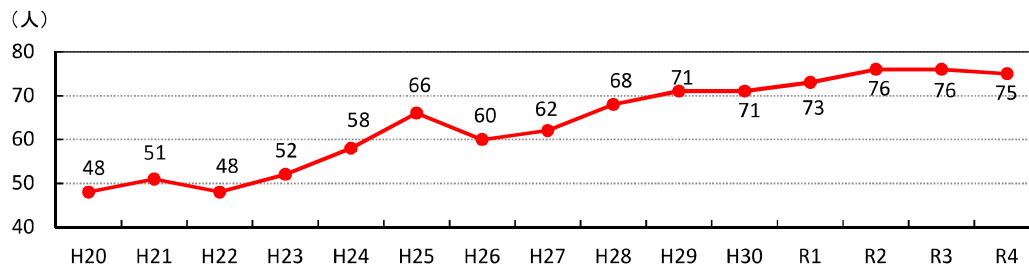
イ 漁業就業者数

平成30年の漁業就業者数は3,455人となっており、前回調査年（平成25年）の4,110人より655人減少した。また、就業者全体に占める65歳以上の割合が47.4%に達しており、就業者の高齢化が進んでいる。



ウ 新規就業者数

魚類養殖等への就業が堅調に推移し、令和4年の新規就業者は75名となった。



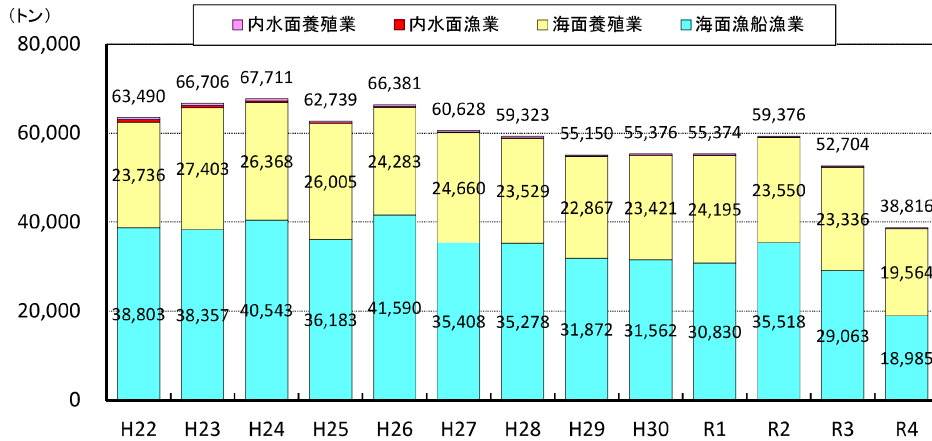
② 漁業生産の概況

ア 漁業生産量

令和4年の海面及び内水面の漁船漁業・養殖業生産量は、主にまき網によるイワシ類・サバ類の不漁の影響で、38,816トンとなり、前年に比べ13,888トン(26%)減少した。

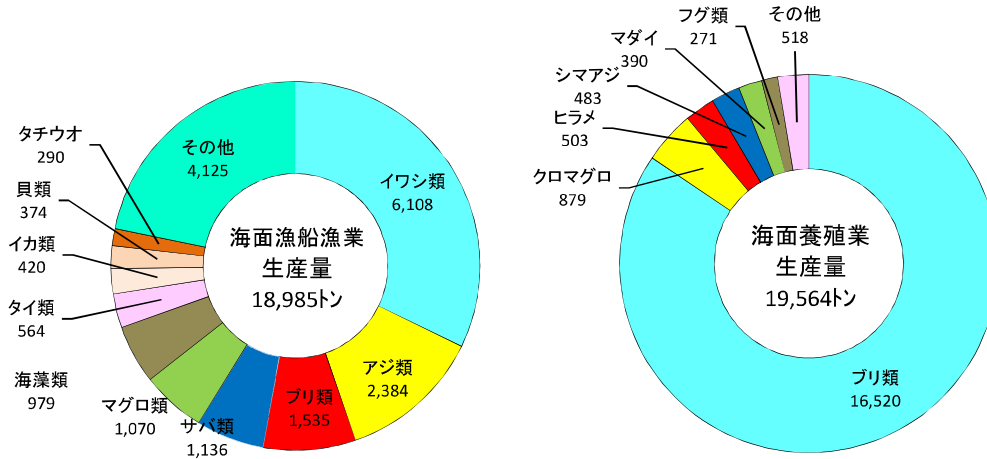
海面の漁船漁業・養殖業の生産量は、38,549トンで、前年より13,850トン(26%)減少した。

内水面の漁船漁業・養殖業の生産量は、267トンで県漁業生産量に占める割合は0.7%となっている。



資料：農林水産省「農林水産統計年報」

主な魚種は、海面の漁船漁業ではイワシ類、アジ類、ブリ類、養殖業ではブリ類、クロマグロ、ヒラメ、シマアジなどである。



海面漁船漁業・養殖業の魚種別生産量(令和4年)

資料：農林水産省「農林水産統計年報」

■海面漁業・養殖業生産量全国上位魚種(令和4年)

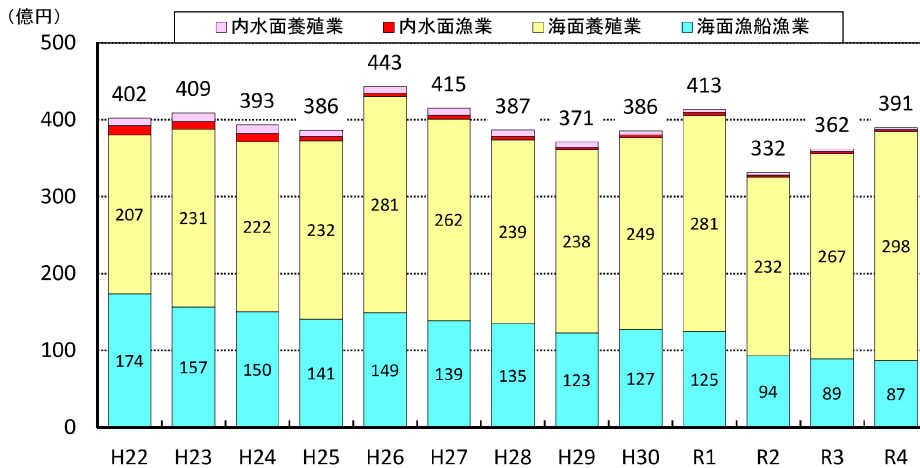
- 1位：養殖ヒラメ
- 2位：養殖ブリ、その他海藻類(天然)
- 3位：養殖シマアジ、養殖フグ類、養殖ヒラマサ、養殖その他貝類、クルマエビ(天然)

イ 漁業産出額

令和4年の海面及び内水面の漁船漁業・養殖業産出額は、モジャコ不漁（令和3年）の影響で養殖ブリの価格が高騰したこともあり、391億円となり、前年に比べ29億円（8%）増加した。

海面の漁船漁業・養殖業の産出額は、385億円で、前年より29億円（8%）増加した。

また、内水面の漁船漁業・養殖業の産出額は、6億円で県漁業産出額に占める割合は1.4%である。

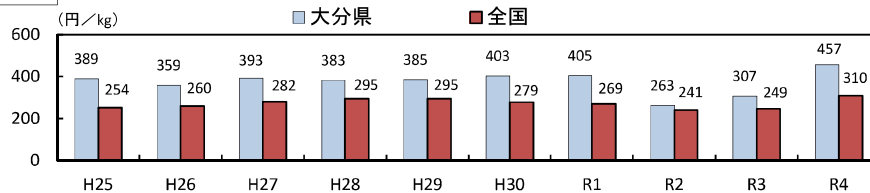


資料：農林水産省「農林水産統計」
項目毎に四捨五入しているため合計が一致しない場合がある

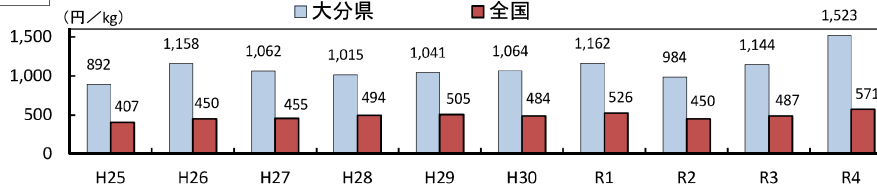
ウ 水産物価格

令和4年の水産物の単価（産出額÷生産量）は、外食需要の回復等による魚価の回復により、海面の漁船漁業では、457円/kgとなり、前年に比べ150円/kg上昇、養殖業では、1,523円/kgとなり、前年に比べ379円/kg上昇した。

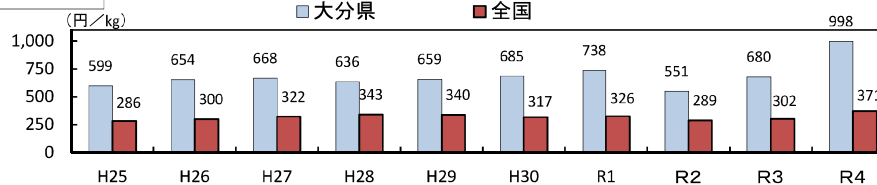
海面漁船漁業



海面養殖業



海面漁船漁業・養殖業計



資料：農林水産省「農林水産統計」